

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	地域で子どもを教育する雰囲気が再生されている	
施策名	子どもの健全な成長を見守る地域環境をつくる	No.12

年度	平成27年度
責任部長	福祉こども部長
主担当課長	青少年育成課長
関係課	生活福祉課、高年福祉課、子育て支援課、生涯学習課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値		実績値				目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
地域で子どもをはぐくむ活動をしている人の割合(%)	→	10.4	10.3	10.6	11.8	10.2	11.8	15.9
		11.8	10.8	11.4	12.1			21.3
地域(子ども会、児童館、公民館)で主催している行事への子どもの参加数(人)	→	-	-	-	-	-	-	-
		40,246	37,969	36,121	36,314			40,900
地域の人からほめられたり、注意を受けたりするなど言葉をかけられたことのある子どもの割合(%)	→	-	-	-	-	-	-	-
		-	69.1	72.7	71.8			76.7

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

核家族化、少子化、夫婦共働きが進む状況で家庭の子どもを育てる力が低下している。また、多様なサービスの提供やプライバシー保護意識の高まりから近所の相互扶助が薄れ、人間関係が希薄化している。一方、子ども会や公民館活動等の従来の地域活動のほか地域の団体やボランティア等が学校活動に協力したり、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)による学校・地域・家庭の連携等も行われている。民間企業等でも小中学生の職場見学や体験を受け入れている。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	B 停滞	指標「地域で子どもをはぐくむ活動をしている人の割合」は一定の範囲内で推移しており、昨年より増加している。また、指標「地域(子ども会、児童館、公民館)で主催している行事への子どもの参加数」も昨年と比べると増加しているが、目標値には届くほどの伸びがみられず、地域活動が全体的に停滞している傾向がみられる。今後も地域活動への働きかけを継続していく必要がある。
------	----------------	--



4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

	長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
	家庭が地域による教育の重要性を認識し、子どもが地域に育てられることを受け入れている	地域が地域による教育の重要性を認識し、地域住民間の連帯感が形成される		
	青少年健全育成市民運動推進事業	三世交代事業		
	青少年健全育成連携事業	地域学校外活動推進補助事業		
	地域青少年健全育成会助成事業	地区公民館委託事業		
	青少年街頭指導活動事業	児童館指定管理運営事業		
	子ども・若者支援連携事業	放課後子ども教室事業		
		子ども会育成事業		
		地域組織(母親クラブ)活動費補助事業		
		民生児童委員協議会補助事業		
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。			
評価	長期成果の設定は、実施主体の「地域」と受け手である「家庭」の面からの切り口で捉えており問題ない。「めざすべき姿」の主体は「地域」であることから、市の行政活動が直接結果を出すものではなく、事務事業も補助や助成等の支援が中心となっている。今後も市としては、地域の要望に努め、地域活動への支援と家庭への啓発をより一層進めていきたい。			
次年度の改善計画	【改善】青少年街頭指導活動事業 巡回箇所を増やす。 青少年健全育成連携事業 健全育成に関するチラシ等を子どもを通してではなく直接保護者に渡すようにする。 放課後子ども教室事業 実施校を4校増設する。			

総合計画推進市民会議による現状評価(※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の評価書」から転記)

評価	C 悪化傾向	指標1と指標3は横ばいであり、目標の達成が難しい状況である。特に指標3は、不審者と誤解されないよう、声掛けをためらう大人も多いのではないかと。指標2は少子化の影響も考えられるが、推移としては悪化傾向である。
----	------------------	---